

せいしょうねん



2025. 3

No.82

編集・発行：堺市青少年指導員連絡協議会

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号
(堺市子ども青少年育成部子ども育成課内)
TEL 072-228-7457 FAX 072-228-8341
Eメール: koikusei@city.sakai.lg.jp
https://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/hughug/wakamono_shien/shidoi/katsudo.html



北区二十歳の集いを終えて

北区二十歳の集い実行委員長 酒井 隆

1月13日(月)に「北区二十歳の集い」は、前週の寒気に包まれた気候とは打って変わって朝から穏やかな日差しのもと、堺市産業振興センターイベントホールで開催されました。

北区青少年指導員の皆さん、北区役所職員の皆さんが午前8時30分に参集して下さり、それぞれの担当内容を確認しながら若者たちのお迎え準備に従事していただきました。

午前9時30分の開場に向けて、お迎え準備が万端の中、午前9時過ぎには続々と主人公の若者たちが集まり、身動きができなくなるくらい多くの若者であふれ、とうとう隣接する公園にまであふれていきました。そのような状況の中で開場時刻の前倒しが必要かと気を揉む一幕もありました。

開場と同時に公園にまであふれていた若者たちが入場していきましたが、今年は開場担当の青少年指導員の誘導もあり最前列から着席していったことに「皆さん、素直!」と感激しました。

感激したもう一つの出来事は、入場口横に式典の看板を設置していますが、その看板の前での写真撮影を行う際に、誰が言うでもなくきちんと整列して順番を待つ姿を見て、元気に飛び立っていく若者の未来に大いに期待ができると私たち青少年指導員は思いました。

式典も例年どおり穏やかに進行していきました。そんな中、式典最後の「若者実行委員企画プログラム」では、初めに顔を隠して登場された中学校卒業時の先生方が順番に顔出ししていくと、それぞれの先生に教えてもらった出身校の若者たちから大きな歓声が上がりました。更に登壇の先生方に加えてビデオでの出演の先生方には「どなたが60秒の持ち時間ピッタリでメッセージをいただけるのか」という内容の課題もあり、ジャスト60秒で終えた先生に対しては教え子に関わらず大いに盛り上がり、皆さんに楽しんでいただけたプログラムでした。こんなに盛り上がる企画を考えてくれた若者実行委員には非常に感謝しています。また、式典最後には若者実行委員から私たち青少年指導員への感謝の言葉をいただいたことも大変うれしく思いました。

式典終了後も、会場からの退場に加えて会場敷地内からの移動も、区役所職員や青少年指導員の皆さんの誘導に従いトラブルもなく予定時刻前に終えることができ、全般的にスムーズな運営だったと思いました。

しかし、一点課題もありました。それは式典進行中にも相当数の若者が会場内で立ち続けていたということです。このことについては安全面と配席数の両面から考えて今後の課題と認識して、来年以降の運営に活かすためにも対応策をこれから検討していきたいと思います。

令和7年(2025年)二十歳の集い 一覧

	会場	部	参加者数	合計	対象者数	参加率
堺区	フェニーチェ堺 (堺市民芸術文化ホール)	1部	852人	852人	1,436人	59.3%
中区	ソフィア・堺 (教育文化センター)	1部	927人	927人	1,288人	72.0%
東区	初芝体育館	1部	541人	541人	826人	65.5%
西区	ウェスティ (西文化会館)	1部	352人	1,038人	1,441人	72.0%
		2部	332人			
		3部	354人			
南区	ビッグ・アイ (国際障害者交流センター)	1部	1,082人	1,082人	1,363人	79.4%
北区	堺市産業振興センター	1部	1,051人	1,051人	1,543人	68.1%
美原区	アルテベル (美原文化会館)	1部	329人	329人	431人	76.3%
合 計				5,820人	8,328人	69.9%

二十歳を迎える若者によるメッセージ

本日は、私たちのためにこのような素晴らしい式典を開催していただき、誠にありがとうございます。お忙しい中、ご臨席いただいた来賓の皆様にも、深く御礼申し上げます。

今日ここで、北区で過ごしてきた仲間たちと二十歳の集いという節目を迎えられたこと、とても嬉しく思います。

この仲間たちの中には、社会に出て働いている人もいれば、学業に励んでいる人、家庭を築いている人もいます。それぞれ、置かれた環境や立場、生活スタイルは異なりますが、一人一人が自分の目標や夢に向かって前進し、充実した生活を送っていることと思います。

私たちが18歳になる年から、成人の年齢が18歳に引き下げられました。成人し、親の同意がなくてもさまざまな契約ができるようになって自由度が上がった分、自分で責任を負うことになる、ということをよく聞きました。あの頃の私は、年齢上は成人していても、自分の身の回りのことで目いっぱいになっていて、決して自立した立派な大人とは言えませんでした。そんな私がここまで無事に成長できたのは、周りで支えてくださった家族や先生方、地域の方々のおかげです。きっと、他の仲間たちも周りの人たちに支えられてきたことでしょう。そのことに感謝しながら、これからは誰かを支える側になれるような強くて優しい大人になること、そして社会の一員であるという自覚をもち、自分の人生を謳歌することを誓って、二十歳を迎える若者代表の挨拶とさせていただきます。

令和7年1月13日

北区若者実行委員 角野 彩華

令和7年（2025年）堺市二十歳の集い



中区



堺区



北区



東区



南区



美原区



西区



令和6年度 堺市青少年指導員 区青少年指導員研修会一覧

区	開催日	内 容	参加者数
堺	11月5日 (火曜)	テーマ:「堺区の少年非行の現状やオーバードーズについて」 講 師:堺警察署生活安全課少年係 警部補 鎌田 亮 様	24人
中	11月13日 (水曜)	テーマ:「中区の少年非行について～小・中学生の犯罪の現状～」 講 師:中堺警察署生活安全課少年係 警部補 中村 剛実 様	30人
東	11月27日 (水曜)	テーマ:「自転車に関する法改正や巡回時の指導について」 講 師:黒山警察署交通課交通総務係 係長 木村 優子 様	37人
西	11月29日 (金曜)	テーマ:「自転車に関する法改正やルールについて」 講 師:西堺警察署交通課 課長 宮原 秀昭 様	32人
南	11月7日 (木曜)	テーマ:「南区の少年非行の現状～青少年が関わる特殊詐欺について～」 講 師:南堺警察署生活安全課少年係 警部補 上西 祥生 様	35人
北	11月19日 (火曜)	テーマ:「問題行動を繰り返す少年たちからの“SOS” ～少年たちが求めている居場所とは～」 講 師:元八尾少年サポートセンター長 橋川 清太 様	23人
美原	11月21日 (木曜)	テーマ:「児童養護施設での子どもたちの生活や自立後について」 講 師:子ども家庭支援センター 清心寮(リーフ) 中尾 清子 様	30人

堺区青少年指導員研修会に参加して

少林寺校区 森崎 靖司



令和6年11月5日(火) 午後7時半より堺警察署生活安全課少年係警部補の鎌田亮様をお迎えし、研修会を開催しました。今回の研修会は「堺区の少年非行の現状やオーバードーズについて」というテーマで開催しました。「オーバードーズ」という言葉は私自身も「最近よく耳にするな」という程度の認識でしたが、改めて調べてみると「医薬品などを決められた量より過剰に摂取すること」という意味でした。

私は、身長193cm、体重97kgであり、風邪気味のときは「体が大きいから若干多めに飲もう」と思って規定量より多めに服用することがありましたので、正直なところ「オーバードーズ」の本当の意味を理解する前までは「薬を若干多めに飲むくらいでこんな特別な呼び方をするのか」程度に思っていました。

しかし、研修会が進むにつれ、その認識は一変していきました。鎌田氏の説明によると、今やインターネットを通じて簡単に薬物が手に入り、罪の意識もなく乱用してしまうケースが増えているそうです。その結果、急性中毒で救急搬送される事例も少なくないということを知り、大変驚かされました。

特に、若年層が自分のスマートフォンを使い、ネット通販で薬物を購入できる現状については大きな衝撃を受けました。また、薬物といえば今まで「大麻」や「覚せい剤」などを思い浮かべがちでしたが、研修会のお話で市販薬(風邪薬や咳止め薬など)の過剰摂取によって依存症になる場合が多く、最悪の場合には、命を落とすこともあるということをお教えいただきました。

今回は、こうした少年非行の現状を知ることができそれに対して青少年指導員としてどう向き合っていくべきなのか、いろいろと課題の多い事案であると感じさせられる研修会となりました。

[オーバードーズについて詳しくはこちらから→](#)



堺市HP



中区研修会に参加して

東百舌鳥校区 今村 憲一



令和6年11月13日（水）午後7時半より中区役所2階会議室において中区青少年指導員研修会を開催しました。「中区の少年非行について～小・中学生の犯罪の現状～」をテーマに、中堺警察署生活安全課少年係警部補の中村剛実様に中区における少年非行の現状について、ご講演をしていただきました。

講演内容は、薬物に手を出した人たちが施設での更生に取り組んでいる事例を紹介したDVDの上映などでした。

DVDの内容説明の後、現在、中区内での小・中高校生による犯罪行為が、他の地域に比べて多いという現状をお話しいただ

き、喫煙や傷害、大麻などによる摘発事例についても触れられていました。研修会当日は平日にもかかわらず、約30人の青少年指導員が参加してくれて、熱心に耳を傾けていました。

今回の研修会を通じて、私たち青少年指導員としての役割の重要性を再認識することができました。そして、これからも校区巡回等を通じて、子どもたちに対して積極的に声かけをしながら、少しでも前述のような犯罪行為を未然に防いでいけるように活動をしていきたいと思いました。



「自転車に関する法改正」についての東区青少年指導員研修会

登美丘南校区 井原 隆夫



令和6年11月27日（水）に「自転車に関する法改正や巡回時の指導について」というテーマで、黒山警察署交通課交通総務係長の木村優子様にご講演いただきました。

研修資料の中に「自転車運転者講習の対象となる危険行為16類型」という文書があり、挿絵付で説明されていました。しかし、研修内容の中心は自転車走行時のヘルメット着用の必要性についてのお話でした。

着用率は全国平均17%余りの中で、大阪府に至っては5%強と非常に低くなっていました。そのためヘルメット着用の啓発が重要であるということ

で、その必要性に関するDVD視聴がありました。DVDの内容は、ヘルメット未着用のために自転車走行中に事故に遭い亡くなられた子どもさんの父親のお話と、同じく事故に遭い3日間意識不明になられたご本人と母親のお話でした。どちらのケースも、着用していればこのような大きな事故にはならなかったであろうという思いを述べられていました。ヘルメット着用が命を守るためにも重要である事は理解していましたが、改めて再確認できました。そこで、着用率を上げるためには、啓発（PR）だけでは足りないのではないのか、警察や行政が一体となって何等かの対策をとることが必要ではないのか、とも感じました。

今回の研修では「自転車に関する法律や安全な乗り方」等の説明を中心にしていたかと思いましたが、ヘルメット着用の重要性のお話が中心となり、次の機会には「自転車に関する法律や安全な乗り方」のお話もたくさん聞かせていただきたいと思います。

しかし、自転車に乗って安全に走行するためには、ヘルメットの着用が必要不可欠であることを再確認させてもらったことはよかったと思います。

あと、他人に迷惑をかけないように走行するためには、交通法規をしっかりと理解する事も必要であるということも再認識することができた有意義な研修会でした。



『たかにしDEけんぷく』祭りの開催

高倉台西校区 林 賢二



高倉台西校区では、以前までは『ふれあい祭り』というステージでの出し物や、豚汁、焼き鳥などの模擬店を出店し、地域みなさんとのふれあいを目的にした行事を11月に開催していました。

2021年4月、旧高倉台西小学校跡地に大阪健康福祉短期大学が開校となり、福祉関係業務をめざす多くの学生が学んでいます。

地域の目的である『ふれあい』活動として、校区住民だけではなく本校区に縁があって、学びの場として通っておられる学生みなさんにも校区の方々と『ふれあい』活動の一員となってもらおうと考えました。そこで、大阪健康福祉短期大学と高倉台西校区連合自治会とのコラボによる『たかにしDEけんぷく』祭りを開催して、学生さん

たちによるステージでの発表や、地域の青年団による『だんじり囃子』などを披露してもらい、子どもたちから高齢の方々まで、ゆっくり楽しむことが出来ました。また、学生さんたちの中には海外からの留学生の方もいて、自国の自慢料理を披露してくれたりしました。

私たちは、このような『ふれあい』の積み重ねが、地域の防犯につながり、防災にも強い地域づくりにつながっていると思っています。

青少年を取り巻く環境は決して安心・安全な事ばかりではないので、私たち青少年指導員の活動にとっても、学生さんや子どもたちと『ふれあう』ことが非常に重要と考えています。

しかし、限られた人数で、なおかつボランティアとしての人々だけでは、子どもたちはもちろん、青少年の安全を確保することは非常に困難です。地域の多くみなさんとの『ふれあい』こそが、青少年の健全な育成に大いに寄与できるものと信じて、これからも頑張っ活動していきたいと思います。



つなぐ、つながる 津久野校区

津久野校区 富田 久子



秋はだんじり祭りで賑う津久野です。10町会の内6町会（下田/西組/宮山/中組/大東/神野）にだんじりがあります。毎年10月第2金曜日から3日間は、地元に住む老若男女だけではなく、学業/仕事/結婚などで津久野を離れて暮らす人、他の地区からの『助っ人』や多くの観客も集い、朝から晩まで活気あふれる津久野です。

「子どもは大人の背中を見て育つ」といいますが、私が子どもの頃、親は料理中に「あ、醤油がない！」と近所で借りたり、時にはイザコザがあったり。日々、私は人の付き合い方を見て育ちました。

でも今は、コンビニあり冷凍食品あり。近所での貸し借りは不要、便利な時代になりました。その反面、人のつながりが希薄になり、子どもが人の付き合い方を見るチャンスが少なくなっています。

校区夜間巡回こそ人のつながりを拓けるチャンスにしたいと活動しています。第2金曜日の午後8時から1時間、各町会から選出の青少年指導員16人で活動しています。長年務める人もいれば、単年度で交代する人もいます。初参加の人は初めは緊張気味ですが、回を重ね、子育て/趣味/他愛ない雑談をしながら巡回するうちに徐々にリラックスし、お互いのバリアが低くなり、つながっていきます。

また、夏休み前後には学校/PTA/防犯委員/自治会役員と一緒に、12月には防犯委員と一緒に巡回しています。時には子どもや若者も参加してくれます。

この『つながり』を拓けることで、もしもの時に、「助けて!」「どうしたんや?」と気軽に声掛けでき、『何があっても、安心して子育てできる/成長できる津久野』をめざし、これからも活動し続けていきます。

令和6年度堺市青少年指導員連絡協議会中央研修会を開催しました



令和6年度堺市青少年指導員連絡協議会中央研修会を令和7年2月14日（金）午後7時からフェニーチェ堺小ホールで開催しました。

年度当初から研修・対策育成部会で中央研修会のテーマについて協議を重ねてきましたが、「犯罪をした子や非行少年が更生をするためにどのような立ち直り支援をしているのか知りたい」「動物と接することでやんちゃな子が心を開いた事例を見たため動物に関わった立ち直り支援があれば知りたい」といった意見が多くあがりました。これらの意見を踏まえ、「少年非行の現状や問題を抱える青少年たちへの立ち直り支援」をテーマに、大阪府警察本部生活安全部少年課の沖本忠生様にご講演いただきました。

講演では、現在の少年犯罪に多い大麻や特殊詐欺のお話からグリ下についての説明などがありました。

その後、少年サポートセンターで行っている立ち直り支援のお話もしていただき、大変有意義な90分間となりました。

当日は、平日の夜間にも関わらず112名の青少年指導員に参加いただきました。

皆様ありがとうございました。



編★集★後★記

最近、SNSと子どもたちの関わりについての議論が世界中で起こっています。

オーストラリア議会では、16歳未満の子どもはSNSを利用することを禁止するという法律が可決されました。またアメリカの一部の州でも、未成年者がSNSを利用する際には保護者の同意が必要であるという法律もできました。

確かに子どもたちがSNSを利用することに規制をかければ、子どもたちのSNS利用が少なくなるので、子どもたちが事件や事故に巻き込まれるリスクが減り、SNSに起因する児童ポルノなどの被害やネット上におけるいじめや誹謗中傷が少なくなるというメリットがあります。しかし一方では、子どもたちが有用な情報も入手しにくくなったり、自らの意見を表明する機会が少なくなったりするというデメリットもあるという事も考えなくてははいけません。

新しい便利なツールが世の中に出てきた時には、必ずメリットとデメリットの両方が共存します。本来はSNS全ての利用を禁止するのではなく、安全な情報には自由にアクセスできて、安全ではない情報のみをブロックするのが望ましいのではないのでしょうか。しかし、その線引きや方法はなかなか難しいものがありますが、このまま放置していてよいはずはありません。

ですから、行政に知恵を絞ってもらって何らかの施策を考えてもらいたいと思います。

黒山校区 上野 忠志